

大きな変革が求められている  
学校現場とともに歩み続けたい

私たちは、変化が激しく、少し先の未来も予測できない社会を生きています。ここ数年を振り返っても、コロナ禍やロシアによるウクライナ侵攻、AI技術の飛躍的な進歩など、予見していなかった出来事が相次いで起こりました。そうした社会の変化の速度は、生徒が社会に出る頃には一層加速しているものと思われま

す。変化の激しい社会では、未知の状況に対応できる思考力や判断力に加え、知識や技能を更新するために必要な学び続ける力などが求められます。それらの資質・能力の必要性は新学習指導要領にも示されており、学校現場を支える先生方への周知もかなり進んでいると感じます。

そうした社会状況を背景として、学校現場ではかつてないほどの変革が求められています。多様な資質・能力の発揮や育成につながる探究学習が、教科学習でも重視されるとともに、生徒一人ひとりの資質・能力を見取るために、学習評価の充実も求められています。これからの学習評価では、「何を学び、何ができるようになったか」を、教師だけではなく、生徒自身も認識し、それを次の目標や学びにつなげられるようにすることが必要とされているのです。

そのような変化と同期する形で、大学入試も変わりつつあります。高校生活を通じて培った資質・能力などを多面的・総合的に評価する、総合型選抜や学校推薦型選抜の実施割合は年々

これからの学校のために  
私たちができること――

生徒一人ひとりの「学びたい！」が  
あふれ出す未来の教育を、  
先生方とともに創り出す

株式会社ベネッセコーポレーション 学校カンパニー長

田村隆憲



高まっており、これまでとは異なる入試対応が学校現場に求められています。

## 現場の声を基に、支援のあり方を考える

生徒一人ひとりの資質・能力を認めて、その伸長を支える教育は、個々の可能性を広げやすいよさがあると思います。その反面、そうした資質・能力は一律のテストでは測定できず、個々の姿を丁寧に見取った上で、個別の課題を基に、指導や支援のあり方・方法を検討する必要があります。そのため、教師の負担が増していく可能性があるでしょう。働き方改革が進みつつあるものの、対応し切れないといった声もよく聞かれます。

また、生徒の学習意欲や学習力が低下傾向にあることが、様々な調査で明らかになっていきます。外発的な動機づけと内発的な動機づけの両面から生徒の学びをいかに支えるかということも、今後一層課題となっていくものと考えられます。

ベネッセは長年にわたり、先生方や生徒、そして保護者が今、何に困っているのか、現場の声に耳を傾けてサービスを生み出し、磨き続けてきました。その出発点には、生徒一人ひとりが「学びたい」「学び続けよう」と、より主体的な姿や行動へと変容するきっかけを提供したいという思いがあります。そのため、次の目標に向けた具体的な一歩につなげることを何よりも大切に、教育現場の状況も踏まえた各種

## 生徒の行動変容と主体的に学ぶ 高校3年間の実現を支援するために、 私たちがご提供するサービス

### 進研模試

新学習指導要領に対応した入試に向け、2023年度は2年生の模試において、変化の大きい地理歴史・公民や、大学入学共通テストの新設教科である情報を出題します。生徒の理解度や定着度に不安をお持ちの先生方が多い状況を踏まえ、より正確な測定、評価をご提供してまいります。

### スタディーサポート、進路マップ

スタディーサポートと進路マップの基礎力診断テストはこれまで、テスト結果の返却に2週間程度のお時間をいただいておりましたが、2023年度より、一部をCBT化し、結果の即時返却を実現。即時にテスト結果を確認できることは、生徒の行動変容に大きな効果が期待できます。

### Classi

進研模試やスタディーサポートなどのアセスメントとの連携の強化により、測定（評価）と学習が一層つながりやすくなります。さらに、個に応じた学びをより深められるよう、サービスを改善してまいります。

### 進路達成プログラム、Compass

学校推薦型・総合型選抜の拡大により、大学入試が生徒の学習のモチベーションにならなくなりつつあります。目標設定の困難さや指導負荷の増加も課題です。そこで、ナビジョンにおいて、「進路達成プログラム」というサービスを展開し、生徒が進路を「自分事」にし、主体的に進路を決定できるサポートを開始しました。Compassも、学校推薦型・総合型選抜にご活用いただけるよう、強化を図ります。

### GTEC

英語4技能や情報活用能力、探究的な学びの姿勢などは、入試方式を問わず、未来を生きる生徒に身につけてほしい資質・能力です。スコア型英語4技能検定のGTECを始め、授業活用から入試活用まで、先生方のご指導に寄り添えるテスト・教材を提供し続けます。

サービスの改善にも取り組んでいます（右図）。

一例を挙げると、到達度型テストであるスタディーサポート及び進路マップの基礎力診断テストは、2023年度から一部をCBT（\*）化して、テスト結果の即時返却を実現しました。実際に導入された学校を見学すると、生徒はテスト結果に基づいて自主的に次の目標を考え、その姿を見た先生方は大変喜ばれていました。情報発信による支援も一層の強化を図っています。教育課題が多様化し、分掌や立場によって直面している課題が異なる状況を受けて、各先生が必要な情報を、必要な時に入手できるように努めていきます。例えば、今号で創刊400号を迎えた本誌『VIEWnext』高校版は、今後も学校現場の課題の本質を捉え、これからの高校教育のあり方を考えていくとともに、より読みやすく、活用していただける媒

## 日本の教育への責任を自覚して サービスを磨き、成長を続ける

体となるよう、誌面を大きく変革しました。次号以降も、ぜひご期待ください。

最後に私自身のお話をさせていただくと、入社してから長年にわたって学校担当として、数え切れないほどの先生方と対話を重ね、生徒の成長を支える先生方のご指導をご支援させていただき、多くの喜びを分かち合ってきました。そうした経験が、先生方とともに未来の明るい教育を形づくりたいという思いの原点にあります。これからも一層全国の学校や先生方の頼りにしていただけるよう、ベネッセは日本の教育に対しての責任を自覚してサービスを磨き、成長を続けてまいります。

たむら・たかのり 1997年ベネッセコーポレーション入社。中四国地方や首都圏の学校担当を経て、進研アド社長、高校営業本部長などを歴任。2022年1月より現職。

\* Computer Based Testing の略。コンピューター上で実施する試験。